

ドイツ留学で私が触れてきた異文化体験

商経学部 経営学科 村瀬佑介

留学先での異文化体験

私はドイツ留学に行くまで一度も海外に行ったことが無く、日本での暮らしが自分の中でスタンダードになっていました。そんな私が体験した異文化体験を大きく5つに分けて述べます。

まず1つ目に、ドイツ留学初日、空港から寮に行く際の切符を買おうと改札を探し階段を降りると、目の前には既にプラットフォームがあり困惑したことを覚えています。ドイツでは信用乗車方式が採用されており、切符を買わずに乗ると抜き打ちで駅員にチェックされ罰金を取られます。また、ドイツの電車は日本の電車のように必ずしも時間通り来るわけではなく、遅延することが多いです。そのため留学初日、寮の事務所でお昼までに鍵を受け取る予定が、かなり時間が切迫し大変だった思い出があります。

2つ目はトイレについてです。空港のトイレは無料で綺麗で日本と変わらないと思っていたのですが、空港から離れた駅近くのトイレや近場のトイレ、デパートのトイレを利用しようとするとなん一回り使用当たり50セント支払わなければならない、トイレのにおいが少しきつかったです。ドイツは水を貴重としているので自動で流れる仕様ではないからです。

3つ目はドイツのリサイクルシステムです。ドイツではペットボトルや缶、瓶をお店に持っていくと1本につき25セントもらえます。というのも、客は1本買うたびに、既に25セントがペットボトル、缶、瓶の金額に上乗せされているからです。その為、人々がリサイクルに積極的である印象がありました。

ちなみに、ドイツでは日曜、祝日はレストラン以外のほとんどのお店が営業していません。ドイツ国内では閉店法（Ladenschlussgesetz）が制定されており、日本のコンビニエンスストアのようなものはほとんどありません。私個人の意見として、この法律は人々の行動が制限される一方で、国民の働きすぎによる過労死や重ストレスを防ぐきっかけとなっているのではないかと思います。

4つ目は言語です。私は留学前に英語の勉強にかなり時間を費やし、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングを千葉商科大学のiSquareを利用しながら、やっとの思いでドイツ留学を叶えることができました。ドイツで半年ほど過ごし振り返ってみると、私の体感ですがスーパーの定員さんを除いてドイツ人の方のほとんどはバイリンガルで英語、ドイツ語を流暢に話すことができていました。ではなぜ、日本人の多くは英語を話せないのか。日本語と英語の文字が異なっているというのは、大きな一つの理由として挙げられると思います。他にも英語に触れる機会、必要性が感じられなかったり、高校生までリーディングとリスニングメインの英語教育を受けさせられたりしたのも主な原因ではないかと思います。ドイツ留学に来てから、他の

国の学生に「いつから英語の勉強を始めて、なんでそんなに英語を喋れるの？」と聞くと、皆不思議そうに答えてくれました。「英語の学習年齢は7歳から10歳くらいで、テレビでも英語のニュースがやっているからそれを見たり、学校では友達と英語を話したりして育ったよ」と、とても興味深いことを聞くことができました。国によって英語教育は異なると思いますが、今後英語を話せる日本人が増え、世界に羽ばたく人が多くなればと思います。

5つ目は宗教についてです。ドイツには多くの教会があり、多くのキリスト教やカトリック教、ムスリム教の方々がいます。学生の集まりや、パーティーなどで自己紹介の際に、「君の宗教は何ですか？」と聞かれることがあるのですが、無神論者なので「無宗教です」と答えると大抵驚かれます。

数多の教会が荘厳で美しい作りになっており、日本では見られない建築様式が使われているので、まるで映画を観ている気分でした。そして教会の中には寄付金箱のようなものが置いてあり、そこにお金を入れると蠟燭をもらうことができます。その蠟燭は、キリストの十字架の前にある祭壇に置かれ、人々がお祈りをすることができます。宗教は多くの人々に浸透し、人々と共に歩んだ歴史あるものを感じました。ある時、私はマレーシアの友人と、観光ついでにキリスト教の教会を見る機会がありました。彼から「君から見て宗教はどのように感じるか」と聞かれました。私はその場で答えることができなかったので、「君にとって今信仰している宗教とはどのようなものなのか」と聞いてみると、彼は「宗教は自信と勇気をくれるものだ」と言っていました。彼はムスリム教でハラールと呼ばれるある一定のプロセスを得た鶏肉か牛肉、そして魚介、野菜、果物といったものを食べるそうです。一方で豚肉や酒は禁止されています。生きてきた年数、ルールを守り続け、自分を縛ることで彼は1人の人として成長する事が出来たのではないかと思います。今でも、「私にとっての宗教はどのようなものか」、不意に思い出して考えさせられます。

現地での学習

ローゼンハイム応用科学工科大学では、Fundamental of Leadership、Business English、Germanの授業を受けました。ドイツの授業は、基本的にディスカッションがメインです。

Fundamental of Leadershipの授業では、教授がまず授業内容をスライドにまとめて解説をしてくれました。その後、その授業内容に沿ったトピック（物語）を3人1グループに分かれて読み進め、最後に書かれた質問について「登場人物のリーダーシップはどのようなものであったか」、「その際の部下はどのような態度や行動を示していたか」という点で考察して、教授に物語の要約とグループで話し合った結果を発表するものでした。

英語での発表に最初は緊張し、質問することを躊躇ったことが何度もありましたが、クラスの友人が積極的に質問をしていたため、その流れに乗って質問することができました。教授に「リーダーシップとマネジメントの違いとは何か」を尋ねると、「リーダーシップは組織の目標達成のためにメンバーを導くが、マネジメントは組織の成果をあげるため」と端的に教えてくれました。分からないことを質問することで、授業の理解度が上がり、自主的に取り組めるので、学習

した内容が鮮明に頭に残りました。リーダーシップには倫理原則というものがあり、具体的には、他者への敬意、他者への奉仕、正義、誠実さ、コミュニティの形成が、倫理的リーダーシップの指針の要素になると学びました。

とある居酒屋で1年間ほどバイトをしていましたが、お世話になり頼りがいがあった方は、やはりこれらの要素に当てはまっていたなと思いました。リーダーという存在がいることで、仕事をするうえでメンバーが一体感を持って、メンバー同士のコミュニケーションが取り辛い時にリーダーが会話のきっかけを作れることもあります。学問と実体験を通して理解することができ、深い学びに繋がりました。また、交換留学生の昼食会で、フランス人学生の1人が交換留学生同士コミュニケーションを取りやすいように会話アプリですぐにグループを作ってくれたことがありました。リーダーシップというのは、普段の生活の中でもよく目にすることができ、集団をまとめるうえで支援的且つ参加的であるように感じます。

次に Business English では、SWOT 分析、効果的な Mail shot の書き方、製品の詳しい説明の仕方を練習しました。製品の事例をもとに、スローガンが適切でなかったり、大きいサイズより小さいサイズが良く売れたりしたのは何故かなどを文章の中から読み取り、書き出す訓練をしました。千葉商科大学で学んだマーケティングの復習ともなり、楽しかったです。将来、会社を経営しようと考えているため、会社の内部環境と外部環境を考え、教授に伝え、自身の考えを修正するのは有益な時間でした。私が考えたことを伝え、それに合理的・論理的ではないところがあると、教授はどこが良くないかを指摘し一緒に考えてくれました。そして、私が会社経営をするにあたり、どのような資金調達方法があるかも教えてくれました。資金調達方法として、国からの助成金、友人知人からの資金、自己資金、株式発行、当座借越などがありました。一つ一つの資金調達方法にはメリット、デメリットがあり。特に助成金についてはあまり知らなかったので興味深かったです。

「Mail shot」とは、読者の購買意欲を高めさせるメールの書き方です。授業の後半ではこれも練習しました。日本ではライティングの練習をあまりしてこなかったのが、教授にかなり添削されました。論理的ではなくデータ不足であることが、主な原因でした。英語をただ書く・話すというのはいくらでもできますが、相手を納得させるというのは私にとって少し難しく感じました。

ある時、Business English の教授が、私が受講していた英語の授業のレベルはドイツ高校卒業レベルと教えてくれました。日本では英検2級が高校卒業レベルであったため、ヨーロッパでは普段から英語が使われているので日本と海外の英語のレベルに差がかなりあると驚愕しました。Mail shot の話に戻りますが、Mail shot において必要なのは最初のグリーティングの部分や最後の締め言葉、P.S.、Tripling いった日本で書いたことのない形式であり苦戦しました。P.S には期間の限定やスペシャルオファーなどを書き、Tripling では3つ製品について語呂の良い言葉の組み合わせ、例えばデザインが最新、携帯可能、軽量などです。日本でもコスメなどの製品を見ると、よく3つほど製品について語呂が良い単語で顧客に興味を持ってもらおうと書かれているので良く使われる用法と思えました。今後は将来的に海外の顧客とコンタクトをとるつもりなので、日頃から読みやすく、文法に誤りのない文章作成を心掛けたいと思います。

ドイツ留学での異文化体験、授業は留学した事のない私にとって、夢を叶える大きな一歩となりました。なにより、ドイツで過ごしてきた殆どがチャレンジ的で成し遂げる度に自信が付き、何事も為せば成ると感じます。

私が交換留学生としてドイツ留学でしっかりと学ぶことが出来たのは、千葉商科大学 i Square の環境や国際課のサポートがあり、周りの人に恵まれサポートして頂いたからです。感謝の意を心から表明します。この度は私を交換留学生として選んで頂き本当にありがとうございました。